

平成20年度 第2回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会を、平成20年12月4日（木）に沖縄市役所にて行いました。

<出席者名簿>

平成20年度 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会名簿

区分	名称・氏名	備考
専門家	エコ・ビジョン沖縄 藤井晴彦	
専門家	海の自然史研究所、琉球大学非常勤 藤田喜久	
専門家	沖縄国際大学 武田富美子	
団体	泡瀬復興期成会	
団体	社団法人沖縄県建築士会沖縄市支部	
団体	沖縄こども未来ゾーン運営財団	
行政	中城湾港出張所	
行政	中城湾港建設事務所	
行政	沖縄市環境課	
行政	沖縄市教育研究所	
行政	沖縄市立博物館	
行政	沖縄市東部海浜開発局 計画調整課	

泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会則

（総則）

第1条 本連絡会は、泡瀬地区環境利用学習推進連絡会と称する。

（目的）

第2条 泡瀬地区における環境学習を継続・発展させるために、関係する機関・団体等で定期的な会議を持ち、情報や人材等の相互提供できるような連携体制を築くことを目的とする。

（構成）

第3条 本連絡会は、基本的に泡瀬地区における環境利用学習に関係する別表に掲げる機関・団体等で構成する。

2 本連絡会を構成する専門家や機関・団体等は、必要に応じて承認を得て追加できるものとする。

（活動内容）

第4条 本連絡会の目的を達成させるために次のことを行う。

- （1）環境利用学習の啓発及び実践促進
- （2）環境利用学習プログラムの利用促進
- （3）環境利用学習運営の検討
- （4）その他本会の目的達成に必要な事項

（会議及び運営）

第5条 会議は、必要に応じて開催するものとする。

2 会議の進行役は、沖縄市東部海浜開発局計画調整課長とする。

3 計画調整課長は、会議を招集するものとする。

4 沖縄市東部海浜開発局計画調整課は本連絡会の専門家や機関・団体等と連携して、本連絡会の運営を行う。

附 則

この会則は、平成17年8月5日から施行する。

会次第

日時：平成20年 12月 4日（木）10：00～

場所：沖縄市役所建設部5階会議室

- (1) 開会
- (2) 前回のまとめ、普及に向けてのアイデア出し
- (3) 本年度の活動報告
- (4) その他

閉会

配布資料：

会次第(本紙)

泡瀬地区環境利用学習推進連絡会委員名簿

第一回連絡会 概要

平成20年度泡瀬干潟を利用した環境学習事例

沖縄市環境学習用教材(抜粋)

○概要

- ・裁判の経緯説明

前回テーマについての意見だし

前回話にあがった長期的な大目標を設定し、各論はそれに添った形で出していくのが軸もぶれずに流れとしてはよいと思います。環境学習の目的としていかに地域に愛着を持った人間をそだてるか、自分で考えて選択できる人間を作れるかというのがあると思います。特に泡瀬は人口の大部分が新たに加入した住民で構成されているので地元として地域の再構築などは長期ビジョンの中核としていいのでは？今後の泡瀬の未来像をどうするかこの地域をどうして行きたいか、何を伝えて残して行きたいかについては地元の意見をまとめておいてもらえると助かります。

(期成会)： 期成会の中でも意見だしは多い。泡瀬の伝統、チョンダラー、産業など何を伝えて残して行きたいかについては期成会の意見もさまざまにまだまとまってはいない。地元といった場合、期成会は昭和20年以前に泡瀬にいた住民が地元という従来の見方があり、自治会の参加やイベントの実施などでは近年入ってきた人との間ではやはり温度差がある。

文化の継承として今度の正月に期成会青年部の若水（わかみじ）を復活させようと思っている。（正月元旦にカーヌ毛の水を樽に汲んでビジュアルに運ぶ行事の再現）この際の声かけの対象は期成会だけでなく泡瀬全体にする予定である。縁起物として配り、飲み水としては配らない。

タルガーは泡瀬のかつての地場産業、やんばる（山原）から材料を運び加工し、黒糖を入れる容器としたダンボールの代わりだった。そのわざを使って水を運ぶ樽も作ってやろうと思っている。

・地域を巻き込んでのイベントが始まっているようですごく好ましいと思います。如何に地域を巻き込んで行くかということは何か工夫をなされていますか。

(期成会)： わたしは長く中学校の指導員をやっているんですが、このまえ期成会としてカーヌ毛にピオトープを作ったんです。その予算は期成会のもので行なったんですがその後中学校の生徒と石組みを一緒に作って行くようにしている。また今後今の泡瀬の浜で地引網などを引いて行きたいと思っている。

(期成会)： 意外と学校は先生が変わると情報が途絶えてしまうことがあった。学校の中は意外と学年間では情報が通らず、何年かして先生が変わると情報がなくなってしまうことがあるのではないかと知っている。

- ・外から学校への接触がなかなか難しいとおもうがなにかいい方法はありますか。

計画調整課では泡瀬の総合学習用に教材集を作って調べ学習や事後学習の際に先生が生徒に授業できるような資料を目指して使ってもらおうようにしてみたのですが今のところ行政としてのかかわりなので先生の反応もいいですが。

・外からのアプローチだと大学の研究者だとかいうとすんなり入っていけるがNPOとかの立場だと難しい。あと学年の目標とかが外からはわからないので目標にマッチするかどうかや、学校の規模とかで対応が変わる。阿嘉島でのケラマジカの調査などは学校行事に組み込んであるのでそのまま先生が変わっても出来る。そこまで行けば継続すると思う。

この環境教材の資料よりももっと簡単なものが求められるのではないか

(教育研究所)： 各小学校には人材リストがあるはず。各学校に地域コーディネーターという担当の先生がいて地域にいる人材をプールしているはず、教頭、校長、地域コーディネーターがそのような情報は集約している。コーディネーターは毎年変わるが情報は引き継いでいるとおもう。3,4年生が社会で地域を知る発展して6年生で沖縄県を知る、6年生理科で自然というような流れだと思う。

・沖縄県の出している環境学習の教材も資料集なのでなかなか使えない。

もっと簡単な概要版を、という意見はあるが実際にやってみるとこんなものかという反応があることが多い。活字と実際にやってみるとの間に開きが大きい。でもとにかく資料というのが充実しているのはいいと思うし、やってみながら使ってもらえばいいと思う。

・教材集については現在HPから取れるようにしているが基本的には一通り流れを説明して一緒にやってみて行くことを前提で配布しているので、活字のみということは想定していないが、人はなかなか字を読んでくれないのでそのような改善は必要かと思う。とにかく学習を進める上で基本となる地図や絵がなさ過ぎるので作成した。今後はこれらをどう活用するか使える人を増やす仕組みを考えたい。社会にしても自然にしても講師は入らないといけないがそのコストは最小限に抑えたい。そこでそれ以外の通常授業で事前事後学習を担当が行なえるための失敗しない資料が一まとめであること、泡瀬についてあまり知らない先生であってもある程度の成果が出せるような資料やワークシートがひとそろえあることなどが先生の安心感につながると考えており、全体のボトムアップが出来ると期待している。

・総合学習の目的は様々な立場から未来を考えることが出来るようになることだと思う。せっかくの集まりなので残して行ける素材は残して行くことに努力したほうがよく、そのためにも教材や資料などの物がないといけないと思う。

・修学旅行生などを受け入れる業者さんなどの話だが、打ち合わせなどでこういう活動をしますという1分程度の映像を使っている。そういうものがあると取り組みやすいのではないかと。あと内容それぞれを対象学年別に整理しておくことで授業内容を提示するときに便利ではないか。また対象の学年の表があると学校の先生が使えると思う。

(教育研究所)：学習目標の大枠は文科省が作成し、個別の目標は各学校になる。ただ3,4年の社会で地域を知るという項目のある学校が多くある。生物としては6年の理科の生き物と環境の分野となると思う。総合の時間は各学校で福祉、自然、平和、などそれぞれの学校で独自に活動目標をおいて取り組んでいっている。その際にコーディネーターが地域の人に声かけなどをして行なっていると思う。

・こういうことが出来ますよということはずっと提供し続けるのかの方向性はどのように考えているのか。

・いまは学校側と手取り足取り状態がかかわっているが、目標としてなるべく講師が入らなくても一年間通して出来る教材のパッケージにしたいと思っており、そのためにも今は密にかかわって問題課題の洗い出しをしている。現在どうしても専門の講師の入らなければいけない時間を3回にしている。

・この教材の対象は泡瀬の学校だけ？沖縄市のほかの場所にある学校は？

講師の継続性は？計画調整課で確保し続けるのか。

・移動の手段さえ確保できればどの学校でもかまわないと思うが移動手段の確保がなかなか難しい。継続性については課としては出来れば学校単位で独自に出来るようになっていただきたいがそれには時間がかかる。さらに市内部の問題としても最終的には環境課か教育委員会が持つ計画調整課が続けるのか課題であるが、市として環境学習への取り組みは必要なことであると考えているのでどこかで取り組んでいくつもりである。

・作成した資料の普及に向けては教育研究所さんに協力していただき沖縄市の教員の初任者研修の項目に干潟の観察会を入れてもらっていてその中で観察会と座学をセットで行っています。初めて教員になった人を対象に観察会をして干潟についての知識と体験をもらい、座学で干潟の仕組みや海における役割、総合学習で取り組むに当たってこんなことが出来る、などを研修してもらっています。そのうち研修を受けた先生が総合の担当になればいいと期待している。

・大学での講義でも沖縄の学生がほとんど平和、平和、となっている。自然環境に取り組む機会が少ないので研修などでの取り組みは重要と思う。

・研修のような義務として環境を学ばせることは大切、平和や文化というものに比べて扱いが難しいというえに扱われていない。環境は置いてけぼりにされやすいので沖縄は自然が大切、というわりに実践されてない分野だと思うので研修などで取り扱うのはすごく大事なことだと思う。その後の方向性が決まるし大事なことだと先生も考えられると思う。

・あと通常は泡瀬小のように年間を通して取り組んでくれる機会は少なく、一回分観察会をしてくださいというのがほとんどで何かの予算があるからお願いします、的なものが多いです。

・ 今後はそういった予算の裏づけが取れることが大事ではないか、学校の予算も様々なものに化けてしまうし、たまたま予算があってもなくなったら終わりになってしまう。3回くらいだったら講師を使えますよ的な予算の確保ができると先生も取り組みやすいと思う。

・ 排水溝にここから海ですというマークを付けるプロジェクトをやっているが総合以外の違う科目社会や国語図工で環境のことに取り組むことをしてもらっている。

また実施するときは下水道課や道路課の人に参加してもらって生き物自然の人だけでなくそれぞれ対応してもらっている。今後そういったコーディネートは重要になって行く、科目のコーディネート、総合だけではなく、すべての教科に入れ込んでいけるような提案ができるといい。

・ こどもの国では地域の特色や文化みたいなものについて何か取り組んでいますか？

（こどもの国）：特にはしてないが園内にふるさと園という古い家並みを展示してはいる。昔はいくつか取り組みもあったと聞いています。

（建設事務所）：われわれは建設する側でなにかと悪役になる機会が多い。環境を守るために何が出来るかなと皆さんの考えを聞きながら考えていました。

（教育研究所）：今学校では片一方だけを教えるのではなく環境と開発を対比でなく並列で取り組んでいる。悪い良いではないと思う。



会議の様子